

# 会長に就任して

菅原 信



神奈川県皮膚科医会の歴史を繙いてみると、昭和35年11月に第1回神奈川県皮膚科懇談会として始まっています。その後順調に発展を遂げ8回の懇談会を重ねた後、会員数も増加し、学術集会としての体制も確立してきたため更に発展させて、神奈川県医師会の学術分科会の一員として新たに名称が神奈川県皮膚科医会と改められました。このような経緯で、昭和41年7月に神奈川県皮膚科医会として第1回例会が開催され、現在に至っています。平成15年3月の例会が第111回となっており、実に37年間の歴史を誇る皮膚科医会であり、県単位の皮膚科医会としては他地域の医会の追隨を許さないものと思われま

す。初代会長は大森周三郎先生（警友病院）であり、昭和46年に第2代会長に中野政男先生（平塚市）がご就任し、その後第3代会長に加藤安彦先生（横浜市立市民病院）、第4代会長として原紀道先生（鎌倉市）がお務めになられています。誠に残念なことに、原先生は会長任期半ばにしてご他界されました。ここに慎んで原紀道先生のご冥福をお祈り申し上げ

ます。この神皮第10号は原先生追悼号となっております。

さて、昨年12月の例会・臨時総会で、私が由緒ある神奈川県皮膚科医会の会長に選任されました。数えて第5代目になります。大森先生は直接存じ上げませんが、中野先生、加藤先生、原先生は皆魅力溢れる先輩であり、その足下にも及ばないことはよく承知しております。しかし、常任幹事、幹事の先生方は皆能力に溢れておられ、神奈川県皮膚科医会に対する愛着や思い入れも大変強いものがあると深く感じております。この仲間にはやや優柔不断な私をきっと支えて頂けるものと確信しております。

中野先生、加藤先生を初め多くの先輩方が築き上げて着実に実績を上げてきた神奈川県皮膚科医会であり、この流れを大切にしつつ伝統を守り、また原先生の夢に満ちたお考えをも引き継いで、会員の先生方と共に、より楽しく魅力ある医会として、さらに発展させて行きたいと考えております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。



## みんなの医会

栗原誠一



神奈川県皮膚科医会は神奈川県医学会の分科会ということになっていますが、これまでの会運営や活動の基本的なスタンスは親睦団体でありましたし、これからもそうあってほしいと思います。個々の皮膚科医が有機的に連携して集合体をかたちづけているのですから、トップダウンの学会とは違って、医会では会員の個性や意見が最大限に尊重されねばならないとも思います。

幹事長の対外的な仕事としては、会長を補佐して学術団体としての体裁を保つことが挙げられます。医師会や他の医会、日臨皮などに関連した仕事は、書類作りが多くて面白いものではありません。一方、新しい知識を学んだり、経験を教わったり、意見交換をして懇親の場にもなっている医会はやりがいがあります。個性の強い会員から奥ゆかしい会員まで、色々な方の希望や意見を集約して医会の活動にまで持ってゆくのは、とても楽しい仕事です。とは言うものの、会員数が450名を超えると、親睦団体でも

縦横の連携システムが必要になります。その点で神奈川は多士済々で、地域代表の幹事、ある方面に能力豊かな幹事、その仕事が大好きな幹事など、私の仕事は楽なもんです。医会に学閥があってはならない、先輩を敬うのは当然だが年功序列よりも適材適所、この2点を肝に銘じて、会員の能力を最大限に発揮できる環境を作ることが仕事だと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

医会を維持するには、個人の自由な考え方がとても大切です。もちろん、自由には義務が伴い、最低限守るべきルールもあります。しかし、すべての会員が、自分たちで作っている会だという認識をもって、色々な形で活動や会務に積極的に参加していただきたいと思います。自分はもちろん、仲間にも楽しんでもらいましょう。

幹事をやりたい、委員会に参加したい、例会を担当したいなど、希望があれば遠慮なくお聞かせください。

